



開成物成務

令和元年 12月 2日(月)発行

校長 津田 将美

師走の音

稲刈りの終わった田んぼで、草が風にゆれています。



ひきしまってきた空気でさらさらとゆれる草の音からは、どこか冬の気配を感じます。朝の登校時に見かける子どもたちの姿も、すっかり冬らしくなり、変わらぬ元気な挨拶をしながらも、1年の終わりを感ぜさせる季節となりました。

学校の北門の木々やその周辺の学校園、学年園は、シルバー人材センターの方々の美化作業のおかげで、とてもすっきりとし見違えるようにきれいになりました。今年一年も、多くの保護者や地域の皆様に支えられ、気持ち良い環境の中で師走を迎えようとしています。



11月18日に、学校運営協議会が開催されました。1、2学期の様々な教育活動やボランティアの実施状況、学校評価、学校防災・安全計画、次年度の予定などを提案し、今後の学校運営について議論していただきました。主なご意見や感想は以下の通りです。

- ・運動会やすこやか会議等、多くの行事の中で、子どもたちの主体的で生き生きとした姿を見ることができた。すこやか会議には、もう少し保護者の参加を増やしたい。(学校行事の話題の中で)
- ・ふれあいクリーン・ドッジでは、子どもたちも楽しそうに参加していたが、先生たちの仲の良さも感じられた。(報道等されている「教師のいじめ」の話題の中で)
- ・ボランティア募集の文書は事務的なもので、イラストを入れるなどもう少し親しみやすいものにした方が、多くの保護者が集まるのではないかと。(ボランティアの実施状況の話題の中で)
- ・学校公開のアンケートは、地域の方の声も聞くことができる貴重なものであると、もう少しとり方の工夫ができると良い。(学校評価の話題の中で)
- ・学校の防災計画には、何をどう防いでいくのかというテーマ性や視点を持ち、更に確かなものになるように具体的に見直してほしい。(学校防災・安全計画の話題の中で)

前向きで、具体的に、開成小学校に対する愛情を感じる多くのご意見をいただきました。残りの2学期、そして3学期、更には次年度以降の学校運営につなげられるように努めて参ります。

議題外のオフレコですが、しいのみコンサートについてのご感想もいただきました。とてもうれしいものだったので、紹介させていただきます。

「実際に参加できなかったのが、後日ビデオで観てとても感動した。特にかいせい学級の『なかよしそんぐ』を歌っている時には、全校が同じふりつけをして、とても良かった。カメラ越しにもこれほど感動するのだから、実際の発表はすばらしいものだったのだろう。」～大脇委員長より～

「『世界にひとつだけの花』の全校合唱で、体育館全体に子どもたちの一生懸命な歌声が響いた時には、涙が出てしまった。校長先生は、よく我慢できましたね。」～私が何度も感動しながら我慢するのが大変だった、という話をした時の鶴田委員(P.T.A代表)の言葉～

師走の音が近づいてきました。多くの人を感動させる開成小学校のすてきさんたちがさらに輝いていけるように、そして、良い一年のしめくくりができるように、文字通り教員は走りまわりながらも、子どもたちと共にがんばります。



円中戦争体験を 次世代に伝える会



11月21日に、円中戦争体験を次世代に伝える会の方を講師に、6年生の授業が行われました。社会科における平和学習は、小学校の多くの学習がつながる、いわば学びの集大成です。以前学校だよりでお伝えをした長崎被爆者代表の山脇佳朗さんのように、みなさん強い使命感を持って、熱心に戦争体験を伝えてくださいました。自分自身の体験を自分の思いと共に自分の言葉で伝えてくださる方々の話は、本当に貴重で、子どもたちも一生懸命耳を傾けていました。

上の写真を見てください。とても近い距離感で熱心に聞く姿を「とてもすばらしい6年生ですね。」と褒めていただきました。思いをしっかりと受け止め、つなげていきます。



今号では、更に6年生の理科の授業を紹介します。11月26日に、富川孝治先生を講師に、「大地のつくり」の1時間目の授業が行われました。そこで登場したのが、何とティラノザウルスの骨格標本です。これは一緒に来校された武蔵野大学の高橋典嗣特任教授の指導された学生が制作したものということです。骨のひとつひとつを丁寧に再現し、ダイナミックに組み立てた標本は本当に迫力があり、このような太古の化石が地面の下に埋まっていることで、学習に向かう意欲が一気に高まります。そして、地層に対する問題意識を生み、追究する姿勢へとつながっていくのです。

次年度より完全実施される新学習指導要領では、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」という資質が大切にする力の柱のひとつになっています。平和学習もそうですが、これからの学習は、学んだことをいかに自分の人生や社会の中で生かし、人間らしさを磨いていくか、という視点が大切になってきます。

小学校の学習では特に、この骨格標本のように興味・関心を高める手立てが大切にされます。各学年の各教科において、教師はいかに子どもたちに追究意欲をもたせるかを考え、工夫し、授業改善を行っていきます。

「大地のつくり」の学習は、講師をおおい自然園園長、一寸木肇先生につなぎ、実際に春日森土手の見学等をしながら体験的に学んでいきます。講師をつなぎ、知識をつなぎ、そして意欲もしっかりとつなぎながら学ぶ中で、自分自身を高める学びをしていってほしいと思います。



11月29日に行われた一寸木先生の授業。12月4日に一寸木先生を講師に、春日森土手の見学に行ってきます。



開成小学校

誕生の鐘

職員室前の「開成歴史通り」に、今年度新しく追加展示された鐘です。円中自治会長さんからの問い合わせで本校職員が搜したところ、社会科資料室から発見されました。何と開成小学校が今の場所に移った明治45年に、酒田村から寄付されたものです。当時は、尋常高等開成小学校という名前でした。正に開成小学校誕生の鐘です。

先日、3年生が総合的な学習の時間に開成歴史通りを訪れ、一生懸命調べ学習をしていました。歴史通りの様々な展示が、子どもたちの学びをつなげながら、考えを磨き合う子を育てています。1月28日の開校記念日には、この鐘を鳴らしてみようと思います。

